

<プレスリリース>

2025年2月21日
スペースワン株式会社

文部科学省 SBIR フェーズ3 事業における追加資金 4.1 億円の配分が決定



2025年2月21日 - 小型ロケットの打上げにより「宇宙宅配便」を目指すスペースワン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 豊田正和、以下「スペースワン」）は、スタートアップの技術を迅速に実用化するため、大規模技術実証を支援する文部科学省の「中小企業イノベーション創出推進事業（SBIR フェーズ3）」（宇宙分野：民間ロケットの開発・実証）において、「増強型ロケットの開発、打上げ実証及び事業化」への補助金として4.1億円の追加配分が決定*したことをお知らせいたします。この追加資金は、効率的な宇宙輸送の実現に向けた開発を加速するために活用されます。

[*文部科学省 中小企業イノベーション創出推進事業（SBIR フェーズ3）宇宙分野（事業テーマ：民間ロケットの開発・実証）のステータスゲート審査結果について：文部科学省](#)



今後の計画について

スペースワンは 2020 年代中に年間 20 機、2030 年代に年間 30 機の打上げを目標に掲げており、その達成に向けて自社専用射場スペースポート紀伊の打上げ体制の強化に取り組んでまいります。また、ロケットの量産体制を確立するにあたり、民生分野で培われた実績を活用するなど、サプライチェーンの強化および製造体制の整備にも取り組んでおります。これらを通じて、契約から 1 年、衛星受領から 4 日で打ち上げる利便性の高い宇宙輸送サービス「宇宙宅配便」の確立を目指します。

スペースワン代表取締役社長 豊田正和 のコメント

今回の追加交付資金の決定により、「宇宙宅配便」の実現に向けた重要なステップをさらに加速できることを大変嬉しく思います。ロケットは宇宙へ行くための唯一の手段であり、その発展こそが宇宙産業全体の成長につながります。スペースワンが日本の「宇宙利用産業」の発展をけん引する起爆剤となることを目指し、今後も技術開発と事業推進に努めてまいります。

以上

お問い合わせ先

スペースワン株式会社 広報担当

Email: info@space-one.co.jp

スペースポート紀伊について

「[スペースポート紀伊](#)：SPK」は、本州最南端の和歌山県串本町に位置する日本で初めての民間のロケット打上げ射場で、宇宙へのアクセスを最短で実現するための包括的なインフラサービスを提供しています。SPK は、南方と東方に開けた地理的特性を活かし、打上げる軌道やタイミングに柔軟に対応できる点が大きな特徴です。宇宙アクセスへの需要は拡大する宇宙ビジネス市場とともに増加し、多様化しています。今後は多数の小型衛星をひとつのシステムとして運用するコンステレーションが、打上げ需要をさらに加速させる見込みです。このようなニーズに対し、スペースワンは「on time, on orbit」、ユーザーが望むタイミングと軌道で衛星を運ぶことを使命としています。柔軟な対応を可能とする自社専用ロケット射場と小型ロケットを備えることで、国内外のユーザーの需要を取り込み、日本および世界の宇宙産業の発展に貢献していきます。

<https://www.space-one.co.jp/site/>